

令和4年4月22日

あさひの日だまり

NO.3

辰野町立辰野東小学校

～交通安全教室が開かれました～

朝、元気に家を出たお子さんは、元気に家まで帰ってきてくれるものをご家族は思っています。私も自分の子どもが元気に家へ帰ってきてくれると、それだけで、「よかった」と一安心したものです。大きなカバンをしょって、一生懸命に歩道を歩いて登下校している児童の姿を見ると、その背中に「どうぞ無事に家まで帰って来ますように」と願わずにはおれません。そんな願いを込めながら、今年も年度当初に、交通安全教室を計画しました。残念ながら当日は雨模様で、自転車を持参しての教室は行えませんでした。9名の安協の皆様と、2人の警察署の方にご来校いただき、交通安全教室を開くことができました。

当日は、DVDによる交通安全の啓発映画を観たり、実際に安協の方々の手を借りながら、交通安全の注意点を確認しながら学校周辺を歩いてみたりしました。自分の体は自分で守るのが交通安全の鉄則です。ルールを守っていても、不慮の事故は起きますが、まずはルールを順守することが大切です。学校でも指導をいたしますが、各ご家庭でもどうぞ話題にしてください。よろしくお願いします。下は、交通安全教室をZOOMにて行っている様子です。

安協と警察の方が集会室からZOOMで発信



教室でDVDを視聴しました。



歩行のルールを道路へ出て確認しました。



～感染防止へのご協力よろしくお願いいたします～

本校でも継続して、新型コロナウイルス感染症の陽性が確認される児童が出ております。いたるところで感染が確認されている現状から考え、いどこで誰が感染したとしても不思議ではありません。現在、児童が感染性した場合は、学校へ連絡いただき必要な対応を取っております。感染されても心配なさらずにご相談ください。

重ねてのお願いですが、以下のことに关しましてご協力ください。

- 1 本人に少しでもかぜ症状がある場合は登校を控え自宅での静養をお願いします。
- 2 ご家族にかぜ症状がある場合も児童の登校は控えてください。
- 3 校内での感染拡大に关しましては精一杯の防止策を取っております。郊外における社会体育等多くの子どもたちが集まる場面における感染防止にもご配慮下さい。
- 4 オクレンジャーへの入力をお忘れなきようにお願いいたします。

～御柱を展示して下さいました～

下町の御柱祭実行委員の皆様が、天神様の一の柱を学校へ展示して下さいました。今年は、子どもたちが実際に曳いたり、綱に触れたりすることができないということで、せめて間近かで見られるようにと心配りをして下さいました。ダンプに乗せて運び入れ、クレーンでおろし、子どもたちが危険なめに合わないよう周囲をしっかりと囲って下さいました。きれいに化粧された御柱はなかなか風格があります。地域の文化に触れることができるせっかくの機会を作って下さいましたので、それに合わせて校長講話を行いました。その中でこんなお話をしました。

今年は御柱祭の年です。親戚の方が家に来てみんなでご馳走を囲んで楽しい時間を過ごしたり、地域の人々で協力して柱を曳(ひ)いたりするお祭りです。みなさんの中には、お客さんを迎えたり、御柱を実際に曳いたり、木やりを練習して披露したりすることとても楽しみにしていた人もいたことと思います。校長先生も、学校の前を御柱が通るのを初めて見られると思っていました。とても楽しみにしていました。

ところが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染防止のために、御柱をたくさんの方の力で曳くことができなくなってしまいました。なんと、トラクターに綱を縛り付けて御柱を曳くことになりました。



ということで、今年はお祭りに皆で参加することができません。綱に触ることもできません。ご馳走を囲んで親戚の人や近所の人たちと盛り上がることもないでしょう。

じゃあ感染が治まって来年はいつもの年のようなお祭りができるだろうと思うとそうはいかないのです。なんと御柱祭が次に行われるのは、今年から数えて7年後なのです。

そこで、「本当だったら御柱祭はこんな感じなんだよ」ということを想像できるように、学校の近くの皆さんが、天神様に立てる子供用の御柱を持ってきてくれました。今、学校に御柱がおかれているのはそういうわけなんです。



見えますか。これには名前がついています。さてなんというか知っていますか。これは、「めどでこ」というのだそうです。めど(目処)とは針に空いた穴のことです。でこ(挺子)は「てこ」のことで、こういう時に使うものです。柱に空いた穴に「てこ」を突っ込んだという様子が何となくこの字の意味からわかりますね。

さて問題です。この「めどでこ」は、何のために取り付けられているのでしょうか。

答えは、昔、道路が舗装されていなかった頃、雨の日は道路がぬかるんでしまいました。ぬかるみに柱がはまると前へ進まなくなってしまう。そのとき、左右の「めどでこ」の木を持って人の力でゆさゆさゆすってぬかるみから抜け出したのだそうです。その名残で、現在でも「めどでこ」をゆすって木を左右に揺らすのが恒例になっています。

真ん中にも一本木が立っています。これは漢字でこう書きます。読み方は「ごへい」とか「おんべ」と読みます。この木の役目は何だと思えますか。

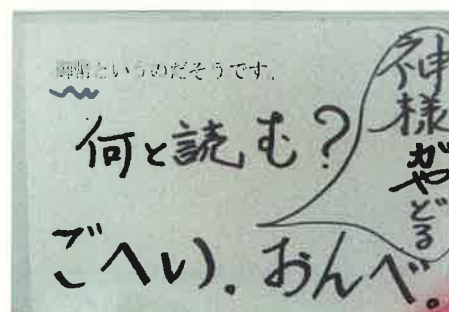
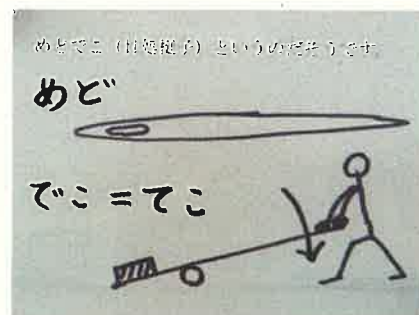
答えは、実はこの木にはお祭りの日、神様が宿ります。御柱祭の日、神様が宿った木を、みんなで力を合わせて引っ張って、山から法性神社まで運び、法性神社に立てるのです。

二つ目の問題です。これから3枚の写真をお見せします。

御柱を見た校長先生は、御柱祭について少し勉強してみました。そしていくつかのことが分かったので皆さんにその中から、今日は2つのことをクイズで出したいと思います。楽しいお祭りのことを楽しいお話で伝えられればいいのですが、楽しくなかったらごめんなさい。

一つ目はこの御柱についてです。

ここに角みたいなのが2本





どれも法性神社の御柱祭です。

1枚目は、昭和19年の御柱祭です。戦時中ですね。2枚目は、昭和31年の御柱祭です。先生が生まれる少し前です。もう戦争は終わり平和な時代が始まりました。3枚目です。平成28年の御柱祭です。前回の御柱祭ですね。1枚だけ他の2枚と様子が違います。注意深くよく見て下さい。

そうです。戦時中の御柱を曳いているのは、みんな子供と女性です。どうしてだと思いますか。みなさん自分で考えてみてください。

こうして、戦時中も、戦後も、そして現在まで、御柱祭は辰野町の人たちの手で大切に引き継がれてきました。今回の曳き手は、人間ではなくトラクターです。1200年の御柱祭の歴史の中で、トラクターが御柱を曳くことは最初で最後に違いありません。たとえみんなで力を合わせて御柱を曳くことはできなくても、地域の皆さんの強い願いで、このお祭りは途切れることなく続いていきます。7年後の次の御柱祭のとき、その次の御柱祭のとき、その次の御柱祭のとき、どうぞみなさん、自分たちが小学生の御柱祭の時は、「トラクターで柱を曳いたんだよ」と語り継いで下さい。途切れることのない辰野町の御柱祭の歴史を引き継ぐのは皆さんたちです。

一緒に、次の御柱祭では、元気よく大きな声を出して柱を引っ張れることを祈りましょう。その様子を近くで応援できることを祈りましょう。

今日は御柱祭のことについてお話をしました。先生のお話は以上です。

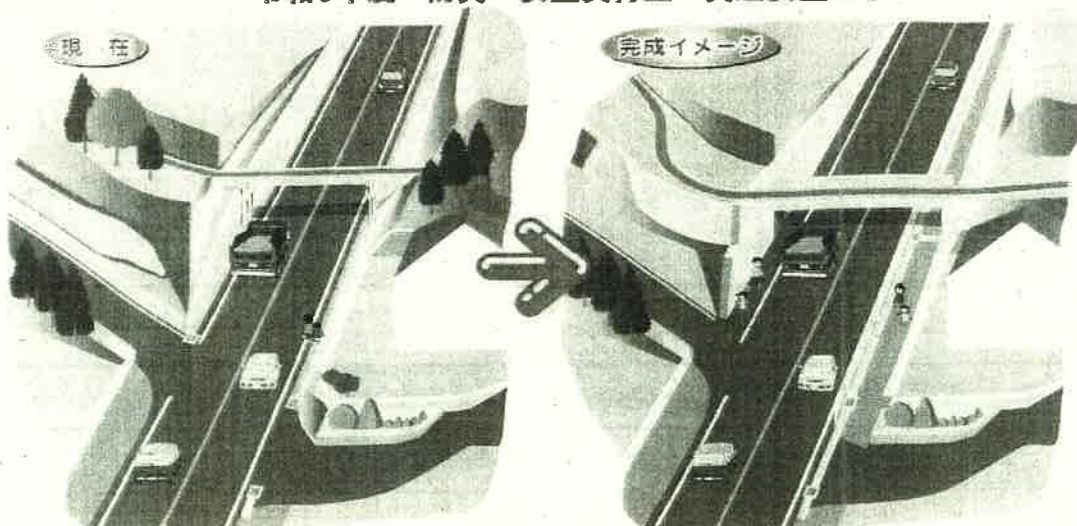
～6月6日～6月19日 県道 樋口矢の坂が全面通行止めとなります～

建設事務所より下記の内容で連絡がありましたのでお知らせいたします。

「坂の頂上部の歩道と坂道の下にある歩道をつなげるイメージ」

古い水路を架けなおして、新しく歩道をつくります

令和3年度 防災・安全交付金 交通安全工事



位置図(片側通行)

辰野町 字 樋口 県道 樋口矢の坂

